令和五年度　昭和大学医学部　国語二期　解答

1

設問Ｉ　他から切り離された個別の身体

設問２　オ

設問３　ウ

設問４　個別の身体にて発生するのに、他に影響を与える点。

設問５　人体を個別の閉じた体系をもつ存在だと考えないと、研究が進展しないから。

設問６　ウ

設問７　エ

設問８　ウ

設問９　病気を個人の身体と集団の二つのレベルに分けて捉えていること。

設問１０　ア

設問１１　ウ

設問１２　ア

設問１３　４

設問１４　ａ困窮　ｂ対照　ｃ成熟　ｄ諦　ｅ名残

2

設問１　意識は精緻なものであるからいきなり完成した意識が生れたのではなく、未熟な意識が進化してできたと考えるべきだということ。

設問２　記憶や知覚は人間以外の動物も明らかに持っており、しかも人間と比べて不完全だから、進化という発想で考えるのが妥当だから。

設問３　記憶や知覚と違い、今ここにいる自己を意識しているという内的意識は、他の生命体の意識とは無関係に個別に存在するから。

設問４　オ

設問５　人間がどのような活動をしても、広大な海の中にその痕跡は拡散し、対策の必要を感じさせるような目に見える変化を表さないから。

設問６　漁業資源の乱獲のために、一時期は、作者がアパート近くの海に潜水しても、魚影がほとんど見当たらないことさえあったということ。

設問７　禁漁区の設定により魚影が戻っても広大な海の中でのごく一部の出来事でしかないように、自然全体を評価することが困難だということ。

設問８　ａ精緻　ｂ中途半端　ｃ誤解　ｄ破壊能力